

マンガで解決!!

中学校  
美術

# 指導の悩みABC



ミュズ

本資料は、一般社団法人教科書協会  
「教科書発行者行動規範」に則り、  
配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

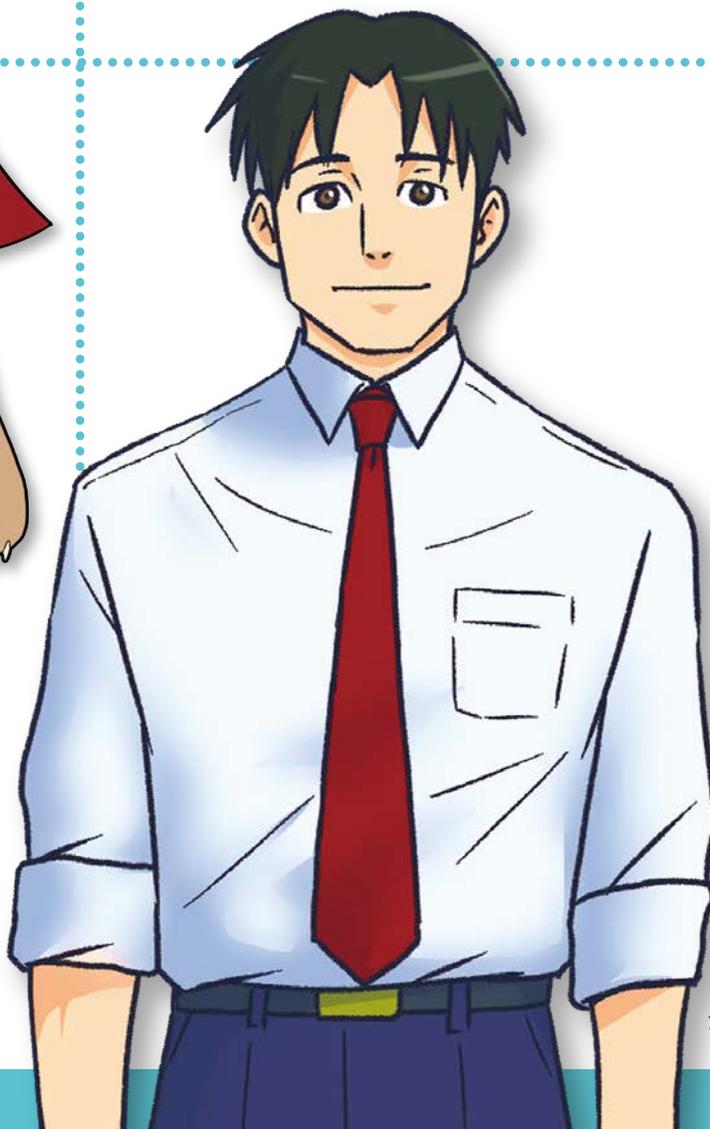
詳しくはWebへ!

日文

検索

未来をになう子どもたちへ  
日本文教出版

- P.1** 悩める先生たちへ  
マンガ「プロローグ」
- P.5** マンガ「図画工作から美術へ」
- P.11** ここがポイント! ▶ 学習環境の変化と子ども／学びの連続性  
お悩みカフェテラス ▶ 言葉の刃物は他人も自分も傷つける
- P.12** マンガ「美術のねらいが大切なのはなぜ?」
- P.17** ここがポイント! ▶ 授業のねらいの大切さ／何を「ねらい」とするか  
お悩みカフェテラス ▶ 何を感じ、どんな体験を積み重ねてほしいか
- P.18** 中美チュービ webサイトのご案内



何を学ぶための授業なのか  
何のために美術の学びはあるのか  
若手教師の成長ストーリー

井澤 亮先生

## 美術教育に「なるほど!」を

美術の授業を行う側から見つめてみましょう。美術教師は、教師としての力量が増し、生徒とのコミュニケーションが上達するに従い、優れた作品づくりへと向かわせてしまいがちです。事実、私自身がそうでした。何を学ぶための授業なのか、何のために美術教育はあるのか、肝心なところがふと抜け落ちてしまうのです。そんな時「そうか!」「なるほど!」と改めて気づくためのヒントとなる

ようなマンガになってほしいと思っています。

日々、よりよい授業を模索している先生たちに、生徒たちの目が輝き、学びがより深まる視点を提供できるような資料となるよう心がけています。ですから実際の中学校の授業の中で起こり得る現場感を大切に、私自身の経験はもちろん、全国の中学校の授業や作品を見て感じたこと、先生たちにお聞きする陥りやすい勘違いや失敗例なども参考に、マンガへと反映させています。

悩める  
先生たちへ



川合 克彦 (かわい・かつひこ)

東京造形大学 非常勤講師  
元神奈川公立中学校教育研究会  
美術科部会 会長  
現中学校美術科教科書 著作者

## 答えは生徒たちの表情に

全国各地の教育現場を拝見すると、孤独感を抱え、情報不足などに悩む美術教師の厳しい現状に直面することが少なくありません。ミニマムな授業時間の中、生徒たちのものの見方や感じ方、考え方や他者の価値観を受け入れる柔軟性といった数値化できない資質を育てていくためにできることは何なのか…。本企画では、その指導のポイントを再確認するとともに、「答えは、目の前の

生徒たちの姿の中にあるよ」と気づきをお見せすることで、先生たちの背中をそっと押して自信へとつなげられたら幸いです。

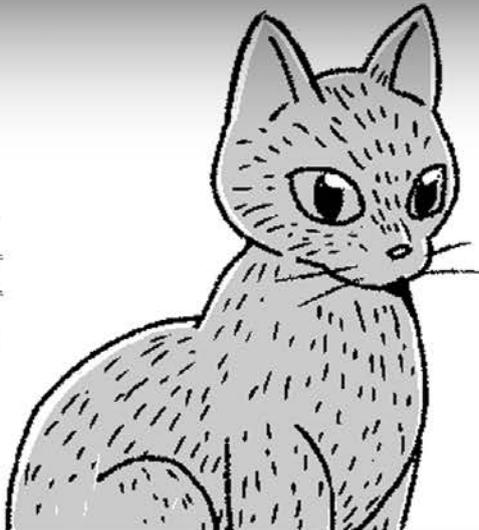
悶々とした悩みを一人で抱え込まず、みんなと一緒に考え成長していくことが大切です。マンガに出てくる井澤先生に自らを投影してみてください。あなたの隣でも“ミュズ”が語りかけてくれるかもしれません。

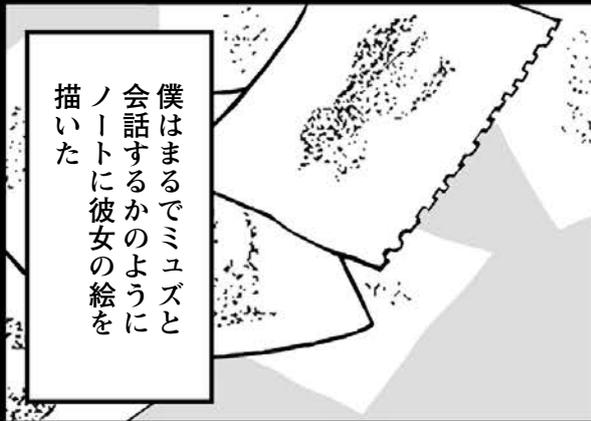
## プロローグ

webサイトの「プロローグ」を抜粋して掲載しています。

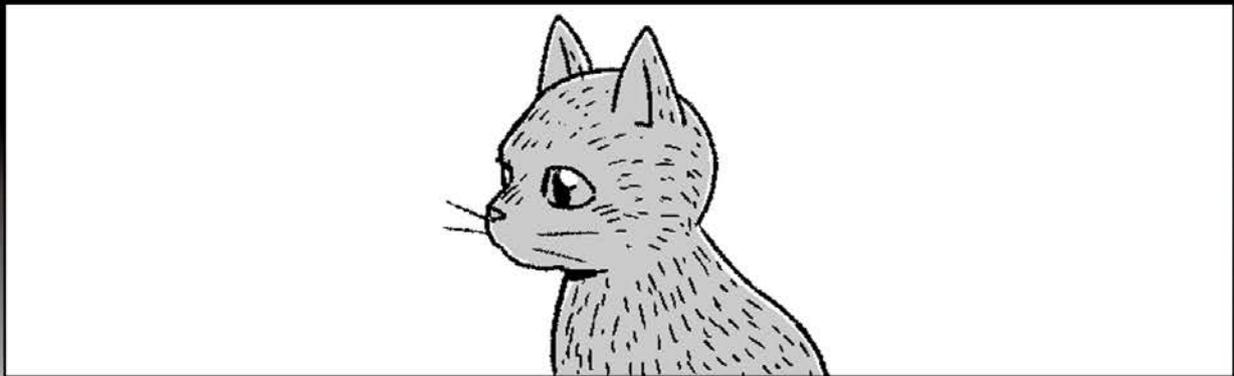








何度見てもミュズは  
見飽きることはなかつた  
僕をじっと見つめる瞳に  
心奪われた…  
…もう一度あの声を  
聞きたい…



先生には  
なれたけど…  
ケイコ先生には  
ほど遠いなあ…



いつしか僕は  
ケイコ先生のような  
美術の先生になりたいと  
思うようになった



# 図画工作から美術へ

webサイトのvol.01を掲載しています。





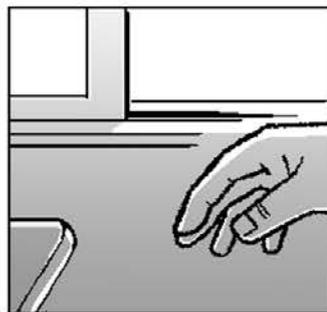








美術って  
もっとわくわく  
するものよ





## ここがポイント!

## 図画工作から美術へ

### 学習環境の変化と子ども

小学校生活から中学校生活へ、子どもたちを取りまく学習環境や生活は大きく変化します。しかしその変化の多くは学校というシステムが変化をもたらすのであって、子どもたち自身が急に変わるわけではありません。

また、中1ギャップという現象が問題視されることがありますが、子どもたちには何の落ち度もないのです。私たちは襟を正し、その問題の原因を根幹から見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。

### 学びの連続性

中学1年生の彼ら自身にとっては3月31日の次の日は4月1日であり、学びの連続性は保たれなければなりません。小学校の教師は小学生のことを、中学校の教師は中学生のことをよく理解できますが、お互い異校種の理解という点と十分とは言えま

せん。私たち中学校の美術教師は小学校のみならず子どもたちが幼少のころから培ってきた造形活動で得たものに着目する必要があるでしょう。

子どもたちは、美しいものを発見した記憶やつくりだす楽しさ、感じ取ってきたことを大切に心の中に持ち続けています。表現や鑑賞といった造形活動における思考は何もないところから自然発生するものではありません。小さい頃からの手ごたえや喜びの中から新たな発想は生まれてきます。その一人一人の価値観を私たち美術教師は尊重し、大切にしなければなりません。そのためには、成長過程の中で彼らが中学生らしい新たな手ごたえのある学びを生み出していく視点を見据え、授業をデザインする力量を持たなければならないのです。

子どもたち一人一人を暖かく見つめ、その創造のエネルギーに寄り添いましょう。答えは目の前の子どもたちの中にあるのです。

## お悩み カフェテラス

例えばほかの先生はどんな授業をしているのでしょうか?

### 言葉の刃物は 他人も自分も傷つける

美術室にはたくさんさんの材料や用具があります。電動糸のこぎりやプレス機、木材の端材……。そのほかにも画集や先輩の作品が並び、胸が高鳴ります。この新しい環境を楽しむために大切なのは「言葉の刃物を人に向けてない」こと。表現しようとする気持ちを傷つける言葉は、他者にも自分にも向けてはなりません。他者への「へたくそ」「何それ、自慢?」は、自分への「どうせ無理」「センスないし…」に変わります。

以前は生徒たちをどこか子ども扱いして、効率的な授業規律を押し付けていました。しかしそれは威圧感や閉塞感ばかりで、すべての生徒が安心できる授業にはなりません。ある日「美術の授業は公開処刑。上手くできないからみんなに見せたくない。」と訴える生徒の涙で、ハッと気づきました。生徒の私語がないのは、活動に集中している場合もあれば、自分に向けて刃物で孤独に耐えている場合もあるのです。

現在、授業開きではアートの

カードを使った伝言鑑賞ゲームを二人一組で行います。マンガなどの文字デザインを鑑賞したあと、形や色彩、イメージを言葉や身振りで相手に伝え、受け取ろうとします。この交歓で生徒は、他者との見方や受け取り方の違いに自然と気づきます。教え込まれるのではなく自ら気づくことは、生徒にとって大きな自信となり、そうして美術室は「自分たちの場所」に変わるのでと思います。

学校は生徒たちが新たに挑戦し、仲間と試行錯誤して新しい未来を発見する場所です。素直な驚きや疑問の呟きを禁じたり、お互いに言葉の刃物を向けてたりすると、好奇心も表現したいと思う勇氣も小さくしぼんでしまいます。中学生は評価を気にしてやりたいことを胸に仕舞い込みがちな年代です。生涯に続く日常の表現の楽しさを保証するためにも、一人一人を大切にしたい「安心できる学びの環境」を美術室につくっていかうと考えています。



中野区立第五中学校  
花里 裕子先生

# 美術のねらいが大切なのはなぜ？

webサイトのvol.03に掲載しています。





今年はもっと  
レベルの高い  
作品が  
できるかも…



…去年あれだけ  
いい作品が  
できたんだし

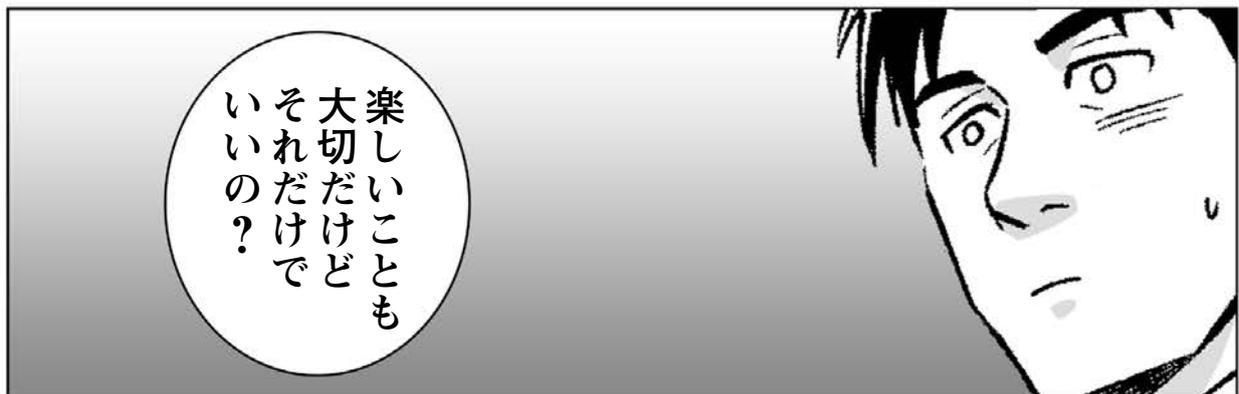


もう木取りを  
始めようとして  
いる子もいたし  
みんな楽しそうだったし  
いい授業だった！

ちよつと  
待って



いやーっ  
みんな頑張って  
作業していたな！









## ここがポイント!

## 美術のねらいが大切なのはなぜ?

### 授業のねらいの大切さ

美術の授業では、表現と鑑賞の活動を行います。そうした活動が授業時間に行われていれば一見「美術の授業」であるように思われがちです。しかし、美術の授業は活動を行うだけでなく、その活動を通して子どもたちの心の中に何を育むのか、というねらいが必要です。子どもたちの心の中に育つもの(資質・能力)は、なかなか現象としてとらえづらく、評価しにくい場面があります。しかし、学習の中にねらいがあって初めて本来の指導・評価ができるのです。子どもたちが集中して楽しそうに造形活動を行っていたとしても、それによってどのような学習ができ、その結果、何が子どもたちを支えていく力となるのかを理解していないと、せっかく育とうと芽を吹いた子どもたちの学びを育てないまま枯らしてしまうことにもなりかねません。

### 何を「ねらい」とするか

また、ねらいはあってもその視点がずれてしまうことにも注意が必要です。「こんな作品をつくらせたいな。」と教師が作品の完成イメージを強く持つあまり、子どもたちをそのルールに無理やり乗せてしまうことがあります。いくら活発に活動しているように見えても、子どもたちの主体性を前提とした自由な発想や新たな学びを追求しようとする姿がなければ、それは美術の学習ではなく、教師のイメージしたものをつくるための単なる作業になってしまうのです。

美術という教科、そして造形活動によりどんな素敵な力を育むことができるのかを見定め、それを授業のねらいとして学習の中心に据える必要があるのです。



## お悩み カフェテラス

例えばほかの先生はどんな授業をしているのでしょうか?

**何を感じ、  
どんな体験を  
積み重ねてほしいか**

美術という教科は、ある程度教科書に沿って学習していく他教科とは異なり、授業者自身が題材設定を行わねばなりません。これは裏返せば、授業者の思いをダイレクトに反映できるということでもあります。この点が、私が美術という教科に最も魅力を感じている点です。

若い頃はそれを逆手に取り、自分自身が制作したいものを題材化した授業を行っていました。しかしそこには「生徒に育成させる資質・能力」という視点が抜け落ちていました。もちろん題材には生徒に「やってみたい」と思わせる魅力が備わっていることが大切ですが、ただ楽しいだけではなく、その授業のねらいを明確にした上でそこに学びがあるように全体を構成、精選することが重要です。

例えば「木でつくるオリジナルバターナイフ」という題材について私がまずおさえたのは、「木育」と言われる視点を持つことです。まず住宅や家具、日用品の小物など、木材は生活

のさまざまな場面で生かされていることに注目させます。次に工芸という分野に注目させ、柳宗悦の思想や「用と美」という観点から自分が使いたい(使いたくなる)デザインを発想・構想していきます。その際、家庭で使っているバターナイフや市販されているもののデザインを観察・取材することも大切です。

技術的な面では、天然木の目の方向を意識して、小刀の使い方やマスタースタンプという思いがあります。そして、完成させた後は「実際にパンにジャムを塗って食べる」という過程を仕組むことで、「使いやすかった」「使いにくかった」など実感させます。すると、みな様に自分がつくったバターナイフを実際に使うことを大いに楽しんでいけることが感じられます。こうした体験を積み重ねることで、生活に息づく美術に触れ、生涯にわたって生活を豊かにすることに繋がっていくと信じています。



南砺市立福野中学校  
藪 陽介先生



## つながる美術

あらゆる分野で活躍する人々にインタビューし、  
“美術とのつながり”を探るコーナー。

### vol.01 | 石黒 浩(いしくろ・ひろし)さん

「コンピューター×美術が  
すべての人を芸術家にする」



**Profile** 大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻教授(名誉教授)。ATR石黒浩特別研究所客員所長(ATRフェロー)、JST ERATO石黒共生ヒューマンロボットインタラクションプロジェクト研究総括。著書に『人と芸術とアンドロイド』(日本評論社)、『ロボットとは何か』(講談社)などがある。

### vol.04 | 佐藤 可士和(さとう・かしわ)さん

「クリエイティビティを  
育てるのが美術」



**Profile** クリエイティブディレクター、慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授、多摩美術大学客員教授。2016年度文化庁文化交流使。博報堂を経て、2000年に「SAMURAI」設立。ユニクロ、楽天グループなどのブランド戦略、ふじようちえん、カップヌードルミュージアムのトータルプロデュースなどを手掛ける。

## 大橋功先生★美術のチカラ

### 美術による学びの成長ストーリー

中学校の美術による学びのチカラを、3年間の生徒の成長する姿に重ね、大橋功先生と一緒に考える連載コラム。

### vol.03 | 生徒と教科書は仲良し



#### 「先生、これいつやるの?」

美術準備室にやって来た1年生のSさんが、手に持った美術の教科書を広げて聞いてきました。先生は戸惑いました。その題材をやる予定はありませんでした。そういえば、入学直後のオリエンテーションの時に、教科書は、全部をやるわけではないことは伝えたものの、どれをやるのかを伝えていませんでした。……

→ WEB へつづく

### vol.05 | 描く楽しさ、つくる喜び



#### 「なぜ、絵を描かなければならないの?」

初めての転勤を経験したM先生が、中学2年のある生徒からの質問に、戸惑いました。これまで勤めていた学校では投げかけられたことがなかった問いです。しかし、前任校では、1年生の授業で、生徒たちの「おもしろい」「楽しい」という気持ちを大切にしてきたことを思い出しました。……

→ WEB へつづく



### 執筆者紹介



大橋 功

(おおはし・いさお)

岡山大学大学院教育学研究科教授(美術教育講座) 京都教育大学卒業、大阪市内の中学校教諭時代に兵庫教育大学大学院を修了、佛教大学、東京未来大学を経て2011年より現職。現中学校美術科教科書著作者。

# 中美チュービ

中学校美術の先生応援サイト



スマホでも！

指導に役立つ  
コンテンツが  
たくさん！



## つながる美術

美術教育とのつながりを美術教育以外の視点から各界で活躍する人々にインタビュー。

### LINE UP

- ロボット工学者  
石黒 浩 教授
- 芸術花火オーガナイザー  
浦谷 幸史 さん
- クリエイティブディレクター  
佐藤 可土 さん
- 物理学者  
村山 斉 教授

And more!

## 大橋功先生★美術のチカラ

美術による学びの成長ストーリー  
中学校美術による学びのチカラを、3年間の生徒の成長する姿に重ねて、大橋功先生と一緒に考えていく連載コラムです。

### LINE UP

- 3年間の学びを通して育てたい生徒の姿
- それが、美術なんだよ。
- 生徒と教科書は仲よし
- 感性の育ちと、美術の学び

And more!

## 中美な人

もっと知りたい指導の工夫  
機関誌「形 forme」に掲載の「学びのフロンティア（中学校）」をWebでも展開しています。

### LINE UP

- 熊本大学教育学部附属中学校  
村田 崇 先生
- 札幌市立真栄中学校  
寺田 実 先生（実践時）
- 宮城教育大学附属中学校  
佐藤 直人 先生

## 村上センセイが行く！ 全国美術室探訪

機関誌「形 forme」に掲載の同コーナーの対談動画を公開しています。

### LINE UP

- 京都市立藤森中学校  
乾 茂樹 先生
- 盛岡市立下橋中学校  
佐々木 俊江 先生
- 中野区立第五中学校  
花里 裕子 先生
- 南砺市立福野中学校  
藪 陽介 先生

And more!

## 指導の悩みABC

先輩からのアドバイス  
指導や授業での悩みや疑問を取り上げ、問題解決へのアドバイスを提案しています。

### LINE UP

- 図画工作から美術へ
- 感性ってなんだろう
- 授業のねらいが大切なのはなぜ？
- 鑑賞の能力はどう身に付けさせるの？
- 授業の前に決めておくことは？

And more!

## 授業づくりのABC

題材のポイント  
題材ごとにポイントを絞った解説をしています。

### LINE UP

- 〈鑑賞〉『ゲルニカ』は語る
- 〈表現〉身近なものを描く
- 〈表現〉身近なものを表す
- 〈表現〉サインのデザイン
- 〈鑑賞〉【ルネサンス】名画の魅力に迫る～『最後の晚餐』に学ぼう～

And more!

LINE  
公式アカウント



日文 中学美術  
LINE あります！

どんどん  
友達増加中！



◀登録はこちらのQRコードから！  
普段お使いのLINEに「中美(チュービ)」の更新情報等をお届けします！

本冊子は、webサイト「中美チュービ」の内容から加筆・修正をしている部分がございます。

## 指導の悩みABC

日文 教授用資料

令和元年(2019年)11月15日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33486

日本文教出版 株式会社  
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5  
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16  
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14  
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵1-13-18・B  
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1  
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690